

世紀転換期のアメリカ哲学における観念論と実在論

大厩 諒(中央大学)

本発表は、20世紀初頭のアメリカ哲学における観念論と実在論の論争の内実を、同時代の哲学者の理解に基づいて明らかにすることを旨とする。

南北戦争終結後から第一次世界大戦に至るまでのアメリカ哲学においては、究極的な実在を精神に求める観念論的哲学が支配的であった。これは「観念論の合意[an idealist consensus]」と呼ばれる。ここで言われる観念論とは、19世紀の自然科学の興隆に基礎を持つ唯物論的主張に対して異議を申し立て、何らかの意識的主体による認識が、その対象の存在にとって本質的だとする哲学的立場である。

観念論的傾向を持つ哲学者——たとえばアメリカ哲学学会(APA)の創設に貢献し、その会長も務めた J・E・クレイトンや、A・T・オーモンド、J・ロイス、G・T・ラッドなど——は、当時の哲学界で大きな影響力を持っていた。

20世紀に入ると、こうした観念論に対する批判が本格的に開始される。この批判の急先鋒が新実在論(New Realism, Neo Realism)である。これは、R・B・ペリー、E・B・ホルト、W・P・モンタギューといった若い世代の哲学者によって主導され、哲学における客観性を観念論から取り戻し、認識論に依存しない存在論を模索する運動であった。

1910年、ペリーたち新実在論者は連名で、「6人の実在論者による計画趣意書および最初の綱領」(‘The Program and First Platform of Six Realists’)を発表し、みずからの立場を明確に打ち出した。これをきっかけに観念論と実在論との論争はますます過熱し、さらにそれ以前から W・ジェイムズや J・デューイによって提唱されたプラグマティズムも加えた三つ巴の議論が繰り広げられた。

その後、第一次世界大戦の勃発によって米国ではドイツへの反感が強まり、ドイツ哲学を積極的に取り入れた観念論(とりわけロイス哲学)への風当たりが強まった。くわえて1916年には、新実在論者へ十分に応答する前にロイスがこの世を去った。こうして、観念論の隆盛の時期は終わることとなった。

他方で、新実在論もまた多くの批判にさらされた。とりわけ、知覚経験における錯覚や誤謬の問題をどのように説明するかをめぐっては、新実在論者のあいだでも意見が対立し、結果として新実在論は1920年代になると離散してしまった。しかし、盛期は短かったものの、新実在論は、現在に至るまでアメリカ哲学の基調をなすことになる後続の実在論に基盤を提供した。

ところで、以上のような20世紀初頭のアメリカ哲学の変動は、同時代の哲学者によってどのように捉えられていたのだろうか。この点を検討することを通じて、上記の論争の中心的な論点も明らかになるとと思われる。

そこで、本発表では、この論争に関わる四つの代表的な論考(R・B・ペリー、W・P・モンタギュー、R・M・コーエン、E・ブライトマン)を取り上げる。はじめの三者においては、観念論への批判と実在論の台頭という大きな流れが明瞭に述べられている。ところが、最後に取り上げるブライトマンの論文は、観念論から実在論へ、という一般的な理解に反して、1920年の時点においても観念論は隆盛を誇っていると主張する。

こうした見方の対立の本質はどこにあるのか。観念論と実在論との論争の焦点は、どこにあったのか。本発表では、実在の独立性の強度、および認識主体と実在との関係という論点に注目し、世紀転換期におけるアメリカ哲学の一側面を描き出すを試みる。

【主要参考文献】

- Cohen, Morris Raphael. [1910] “The Conception of Philosophy in Recent Discussion,” *The Journal of Philosophy, Psychology and Scientific Methods*, Vol. 7, No. 15, 401-10.
- Perry, Ralph Barton. [1912] *Present Philosophical Tendencies: A Critical Survey of Naturalism, Idealism, Pragmatism and Realism Together with A Synopsis of the Philosophy of William James*. London, New York: Longmans, Green & Co..
- Montague, William Pepperell. [1912] “The New Realism and the Old,” *The Journal of Philosophy, Psychology and Scientific Methods*, Vol. 9, No. 2, 39-46.
- Brightman, Edgar Sheffield. [1920] “Modern Idealism,” *The Journal of Philosophy, Psychology and Scientific Methods*, Vol. 17, No. 20, 533-50.
- De Waal, Cornelis. ed. [2001] *American New Realism 1910-1920*. 3 volumes. Bristol: Thoemmes Press.